

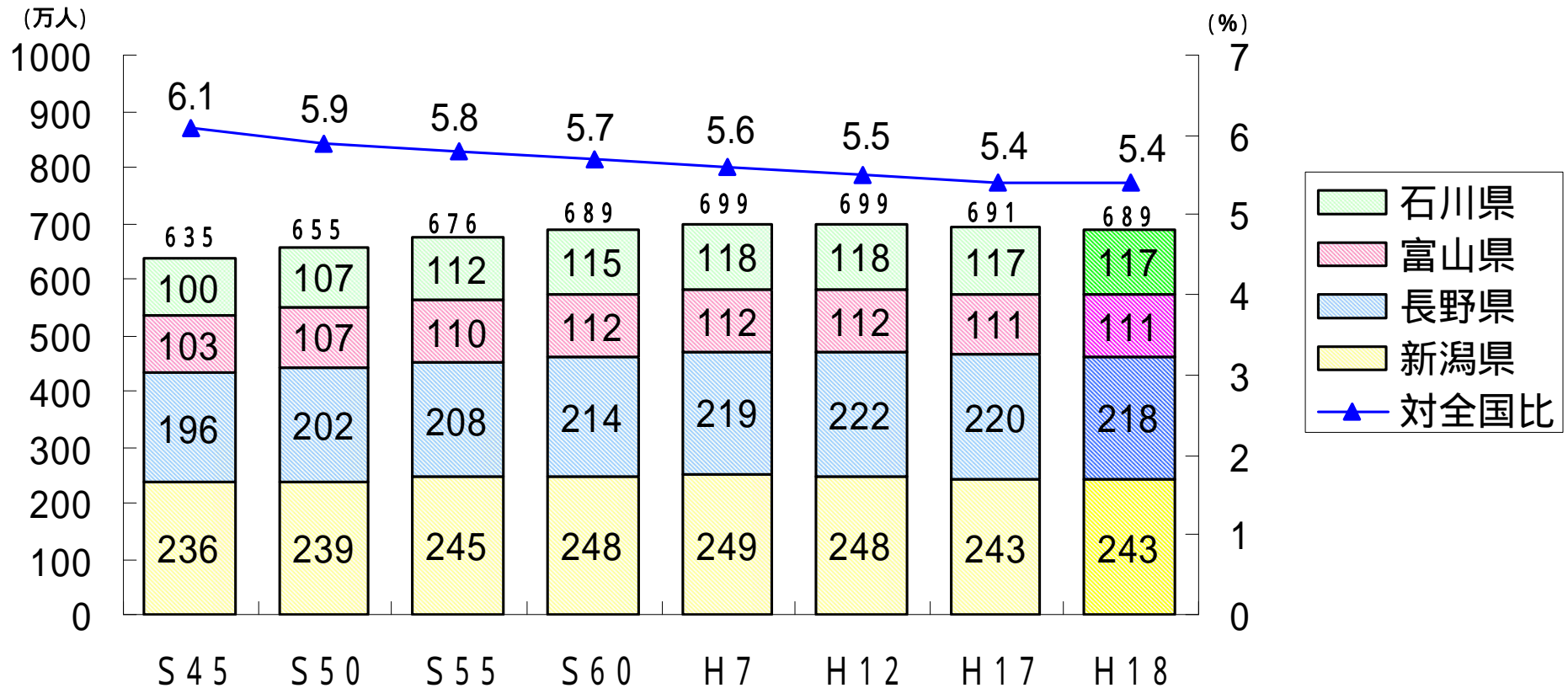


北陸信越地域における 交通観光に関する現況

北陸信越地域の人口等の動向

人口の推移(全国・北陸信越地域全体)

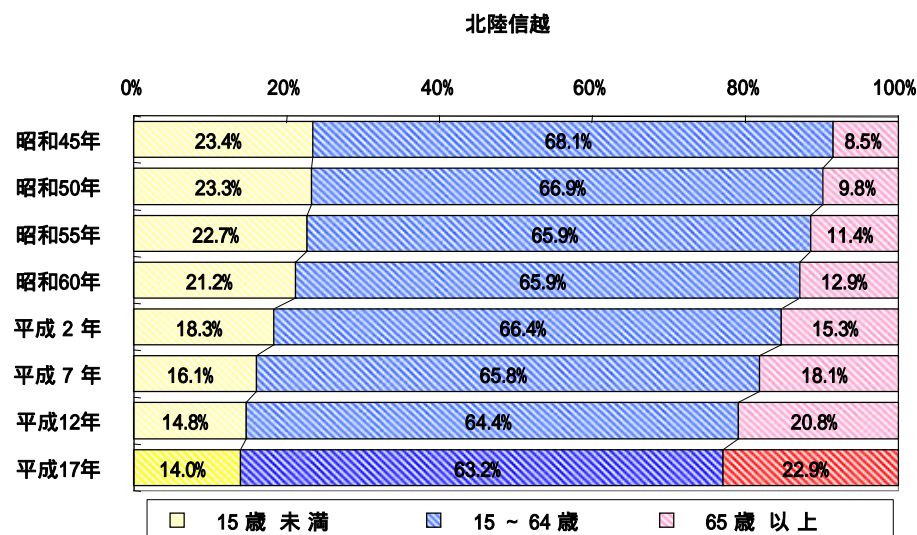
・北陸信越地域の人口は、平成12年をピークに減少している。



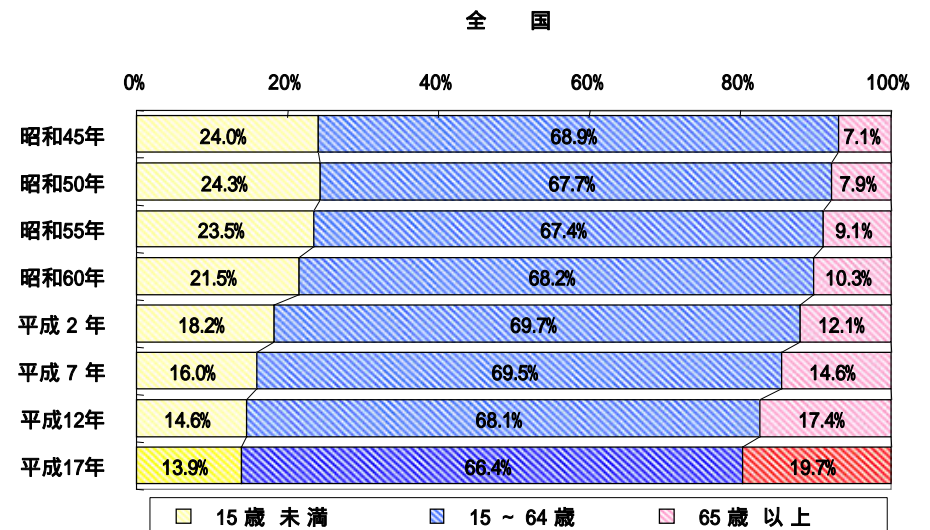
北陸信越地域の人口等の動向

少子高齢化の進展(全国・北陸信越地域全体)

・北陸信越地域は全国よりも早いペースで高齢化が進展している。



資料: 国勢調査、17年は住民基本台帳人口

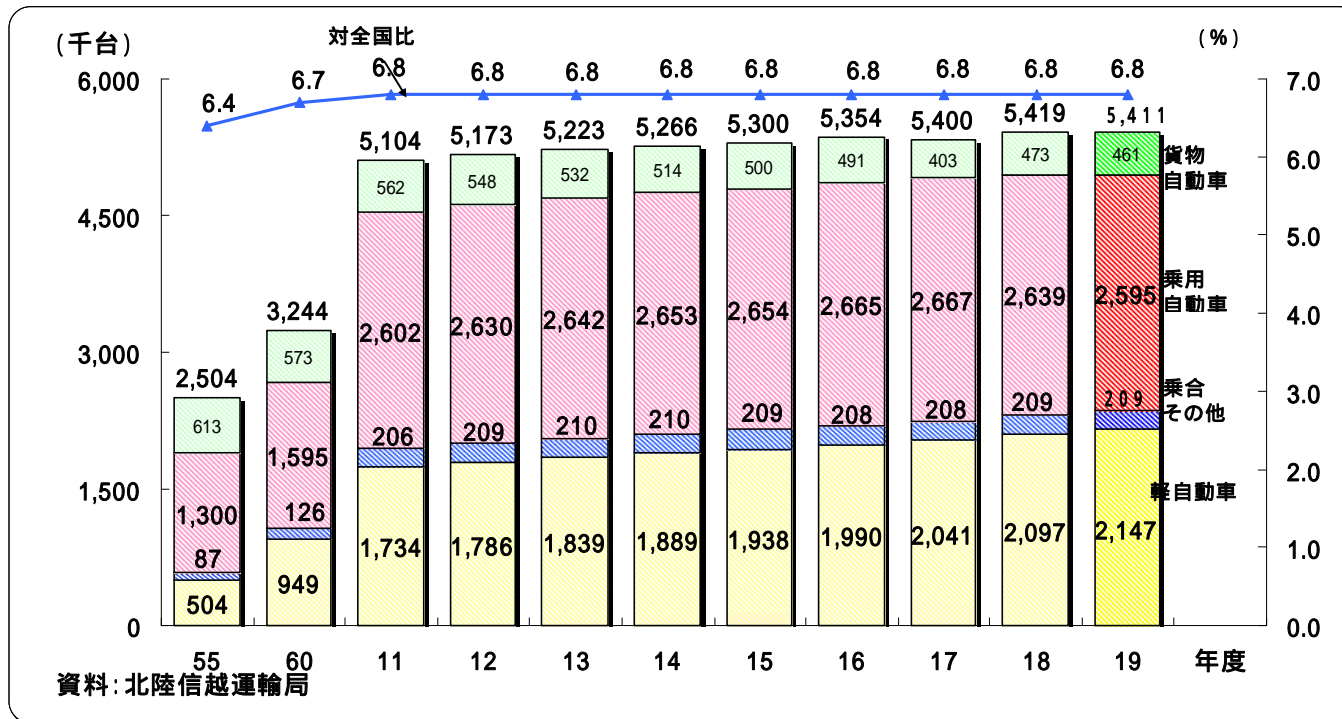


資料: 国勢調査、17年は住民基本台帳人口

北陸信越地域の人口等の動向

自家用車保有台数の推移

- ・自家用車保有台数は、年々増加傾向にあったが平成19年度には減少に転じた。
- ・平成19年度は全体的に減少に転じたが、軽自動車は増加している。



北陸信越地域の人口等の動向

各県別自動車保有状況(平成19年3月末現在)

北陸信越地域では、1人当たりの自家用乗用車保有数、1世帯あたりの自家用乗用車保有数ともに全国平均よりも高くなっている。特に富山県においては1世帯あたりの自家用乗用車保有数が高くなっている。

全 国	
保有車両数	79,236,095 台
うち自家用乗用車	57,236,620 台
人 口	127,053,471 人
世 帯 数	51,713,048 世帯
1人当たりの自家用乗用車保有数	0.45 台/人
1世帯当たりの自家用乗用車保有数	1.11 台/世帯

新潟県	
保有車両数	1,806,172 台
うち自家用乗用車	1,283,289 台
人 口	2,425,683 人
世 帯 数	831,390 世帯
1人当たりの自家用乗用車保有数	0.53 台/人
1世帯当たりの自家用乗用車保有数	1.54 台/世帯

長野県	
保有車両数	1,862,201 台
うち自家用乗用車	1,278,665 台
人 口	2,184,596 人
世 帯 数	798,841 世帯
1人当たりの自家用乗用車保有数	0.59 台/人
1世帯当たりの自家用乗用車保有数	1.60 台/世帯

北陸信越	
保有車両数	5,418,548 台
うち自家用乗用車	3,877,289 台
人 口	6,890,241 人
世 帯 数	2,441,924 世帯
1人当たりの自家用乗用車保有数	0.56 台/人
1世帯当たりの自家用乗用車保有数	1.59 台/世帯

石川県	
保有車両数	870,861 台
うち自家用乗用車	656,673 台
人 口	1,169,249 人
世 帯 数	431,925 世帯
1人当たりの自家用乗用車保有数	0.56 台/人
1世帯当たりの自家用乗用車保有数	1.52 台/世帯

富山県	
保有車両数	879,314 台
うち自家用乗用車	658,662 台
人 口	1,110,713 人
世 帯 数	379,768 世帯
1人当たりの自家用乗用車保有数	0.59 台/人
1世帯当たりの自家用乗用車保有数	1.73 台/世帯



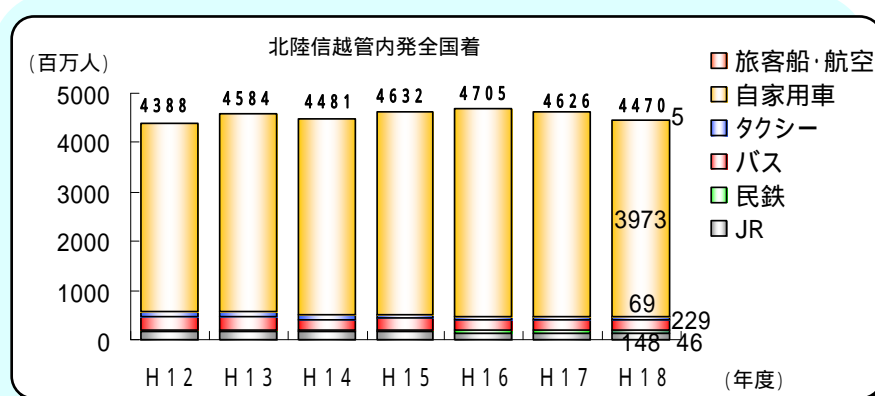
資料:車両数 北陸信越運輸局
人口及び世帯数 住民基本台帳

旅客流動の動向

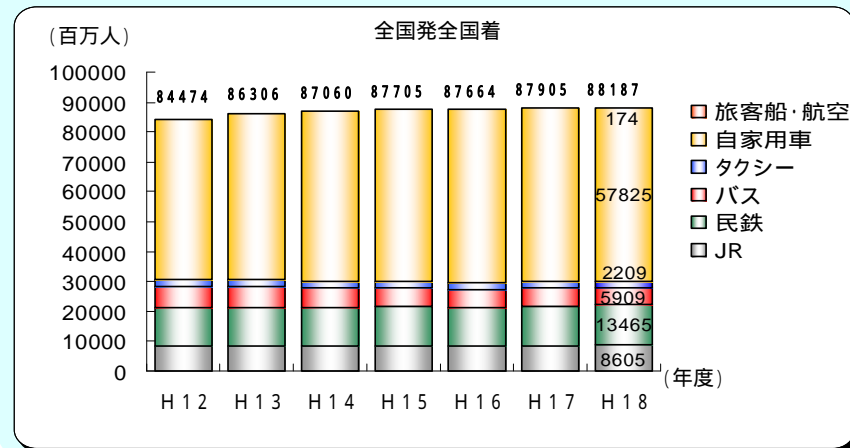
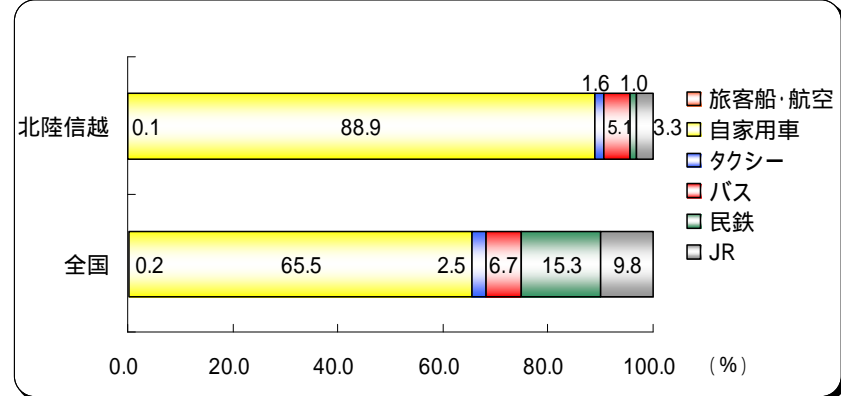
輸送人員の推移及び輸送機関別分担率(全国・北陸信越地域全体)

・北陸信越地域は全国に比べ、自家用車の分担率が非常に高い。

輸送機関別旅客輸送人員の推移



旅客輸送機関別分担率(平成18年度)



資料:旅客地域流動調査

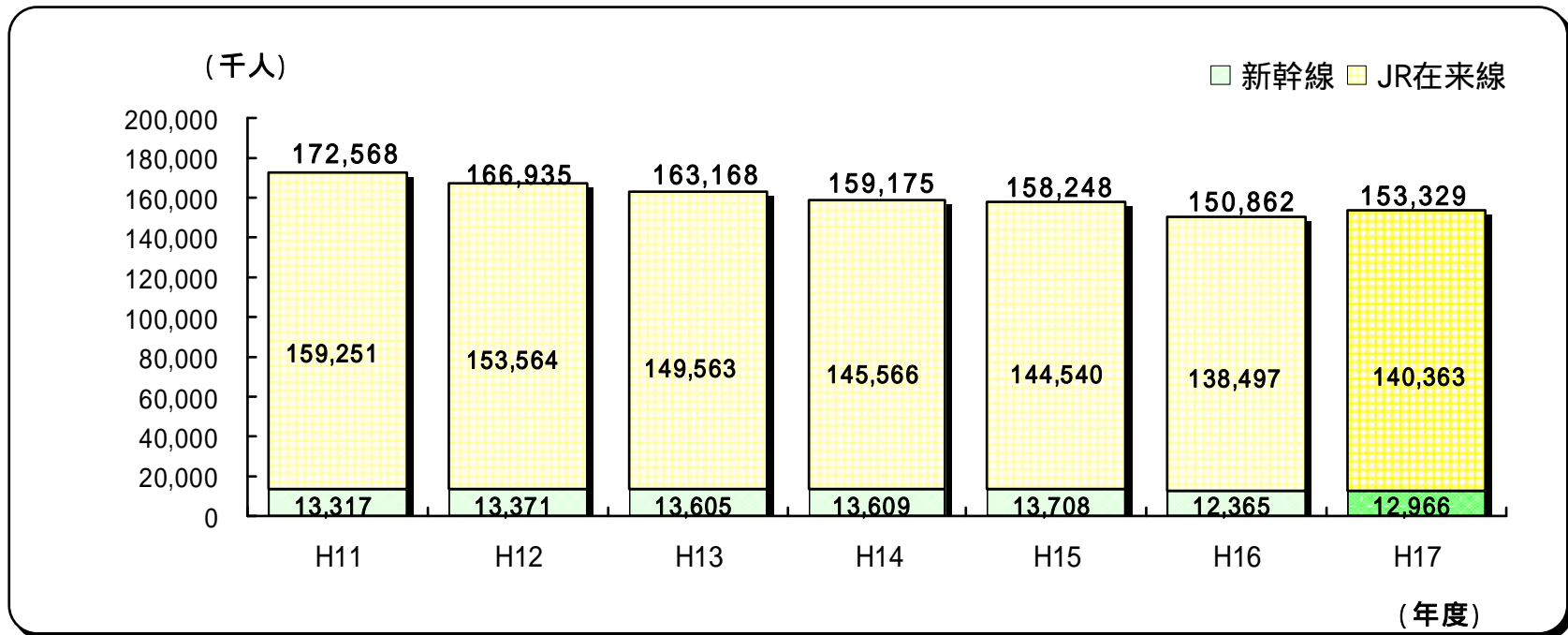
資料:旅客地域流動調査

旅客流動の動向

鉄道(広域流動)における輸送人員の推移(北陸信越地域全体)

北陸信越地域の輸送人員は鉄道全体で見ると減少傾向である。

鉄道旅客輸送人員の推移



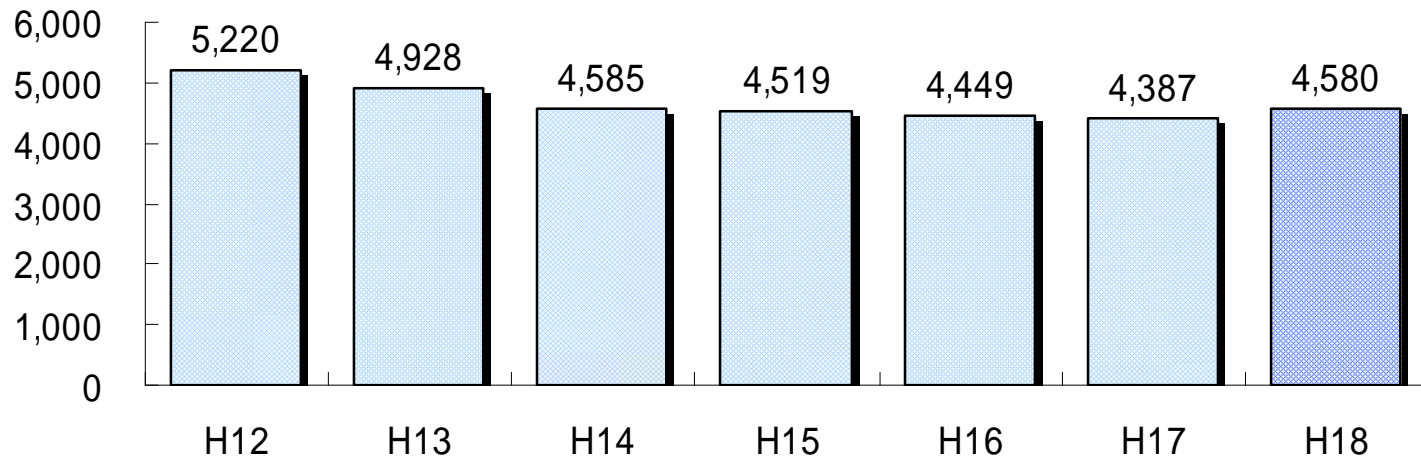
資料: 地域交通年報

旅客流動の動向

鉄道(域内流動)における輸送人員の推移(北陸信越地域全体)

北陸信越地域では、減少傾向にあったが、平成18年4月富山ライトレール(株)開業に伴う、輸送人員の増加により、平成18年度は、増加に転じた。

民鉄旅客輸送人員の推移



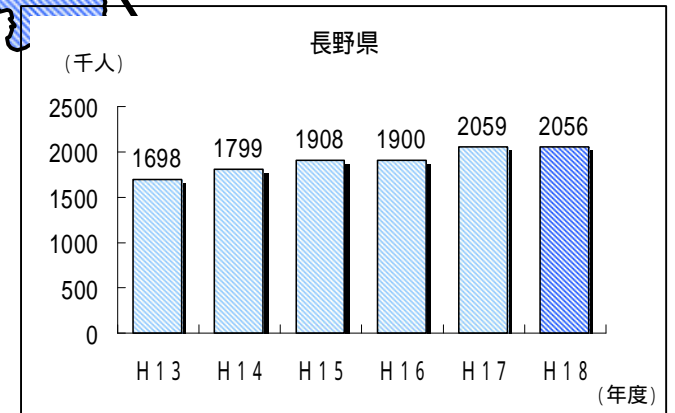
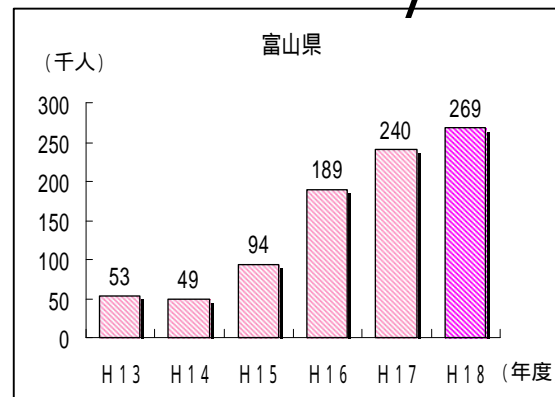
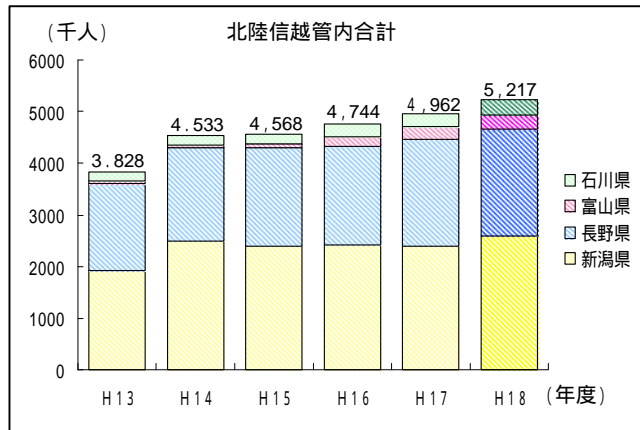
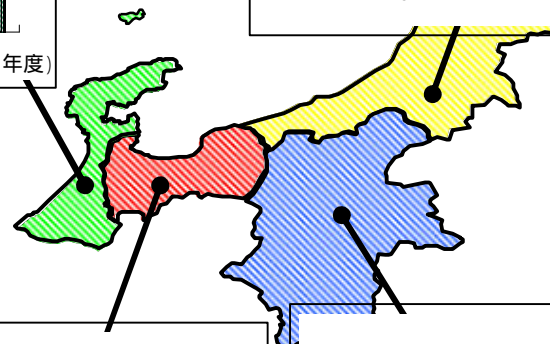
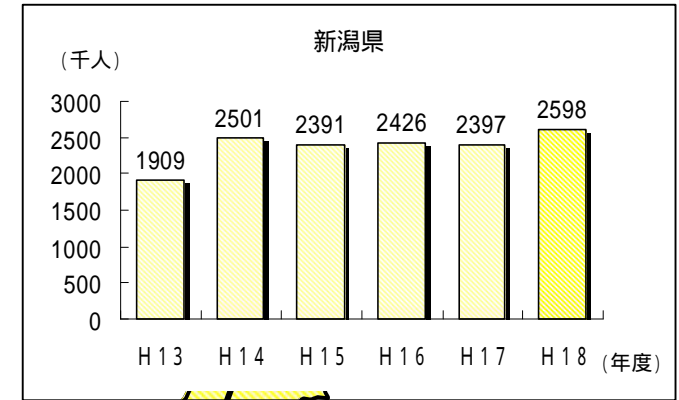
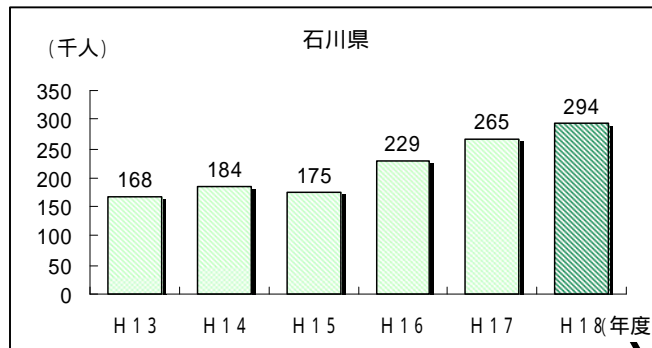
資料: 鉄道統計年報、北陸信越運輸局

(注) 民鉄は、新潟県: 北越急行(株)、新潟交通(株)、蒲原鉄道(株)、長野県: 長野電鉄(株)、松本電気鉄道(株)、上田交通(株)、関西電力(株)、しなの鉄道(株)、富山県: 富山地方鉄道(株)、加越能鉄道(平成14年4月から万葉線(株)、黒部峡谷鉄道(株)、立山開発鉄道(株)、立山黒部貫光(株)、富山ライトレール(株)平成18年4月開業、石川県: 北陸鉄道(株)、のと鉄道(株)。新潟県: 北越急行(株)平成9年3月開業、新潟交通(株)平成11年4月廃止、蒲原鉄道(株)平成11年10月廃止。長野県: しなの鉄道(株)平成9年10月開業。富山県: 加越能鉄道は、平成14年4月万葉線(株)へ譲渡。

旅客流動の動向

高速バスにおける輸送人員等の推移（各県別事業者の輸送実績人員）

・北陸信越地域の輸送人員は増加傾向が続いている。



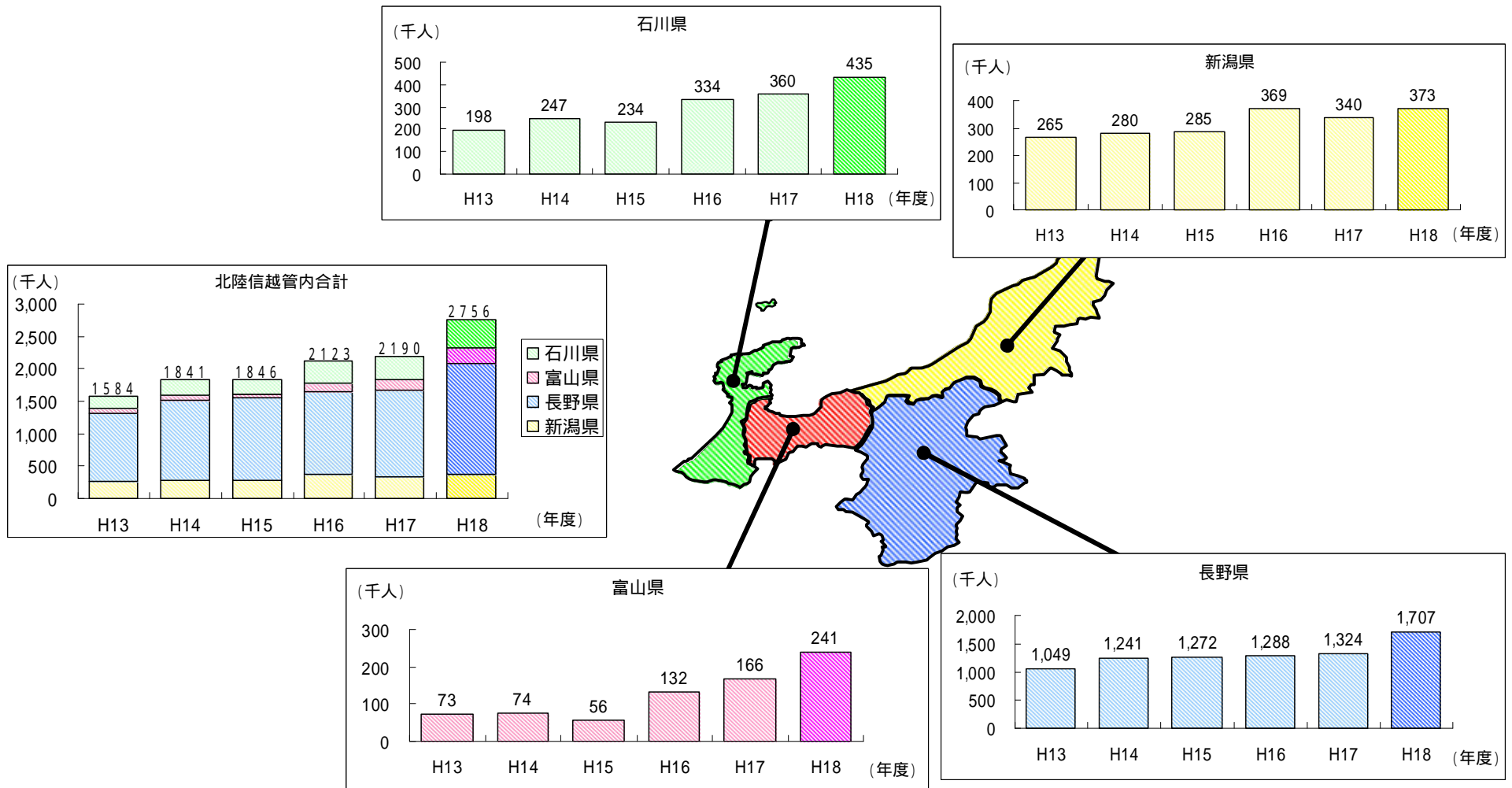
注1) 輸送人員は、各県の事業者が輸送した高速バスによる輸送人員の実績であり、発着地とも県内の高速バスの輸送人員を含む。

注2) 管外に本社を有する事業者については除く。
事業者のうち、長野県には、西武高原バス(株)及びJRバス関東(株)、石川県には西日本JRバス(株)がそれぞれ含まれている。

資料: 北陸信越運輸局

旅客流動の動向

高速バスにおける輸送人員等の推移 (発地ベースの県外移動人員)



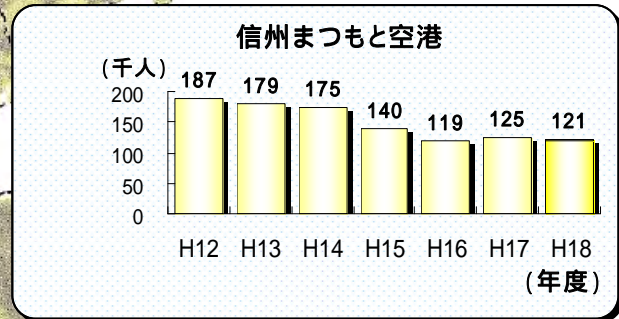
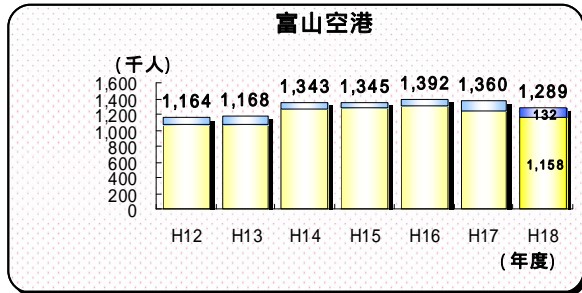
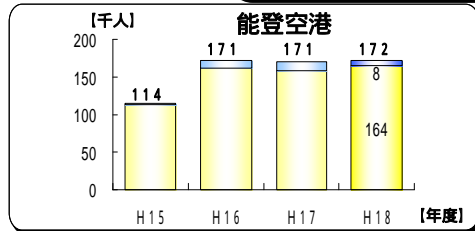
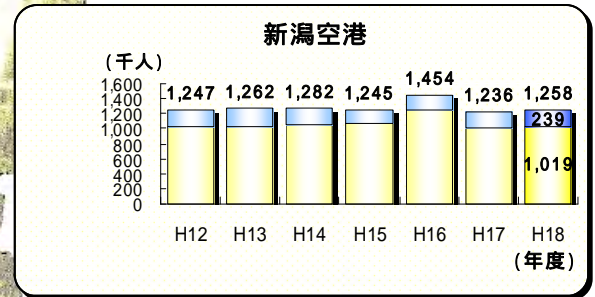
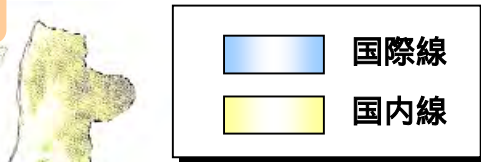
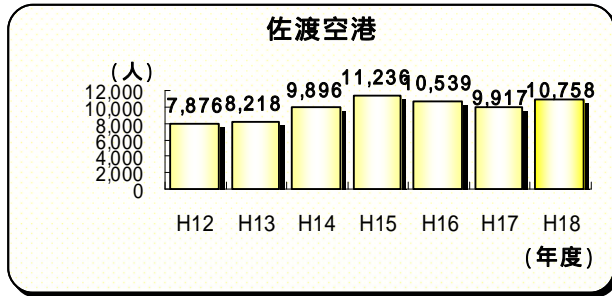
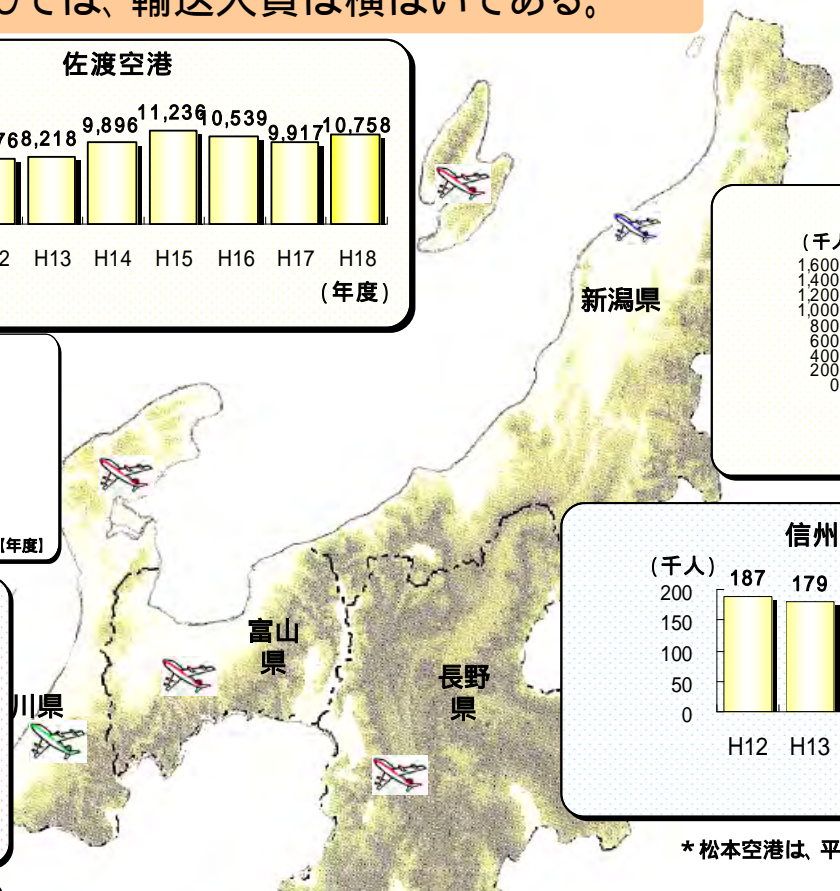
注) 輸送人員は、高速バスにより各県内から他県へ移動した人員数である。

資料: 旅客地域流動調査

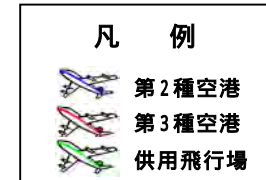
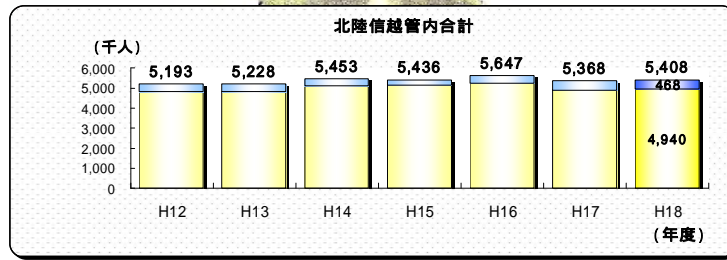
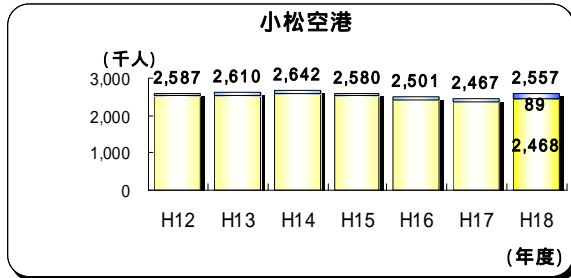
旅客流動の動向

航空における輸送人員等の推移(北陸信越地域全体)

・北陸信越地域全体としては、輸送人員は横ばいである。



* 松本空港は、平成16年7月信州まつもと空港に改名



注) 輸送人員は各空港における利用(乗客、降客)人員である。

資料: 空港管理状況調査

旅客流動の動向

航空ネットワーク(北陸信越地域全体)

新潟空港 (滑走路 2,500m ・ 1,314m)

空港	路線	便	便数	大小	定員合計
新潟空港	国内線	札幌	3/日	小	498/日
		佐渡	2/日	小	18/日
		名古屋(小牧)	2/日	小	100/日
		名古屋(中部国際)	2/日	小	240/日
		大阪	9/日	小	1048/日
		神戸(運休)	-	-	-
		福岡	1/日	小	133/日
	国際線	沖縄(6~9月運休)	1/日	小	166/日
		ハバロフスク	2/週	小	320/週
		ウラジオストク	2/週	小	280/週
		イルクーツク(運休)	-	-	-
		ソウル	7/週	小	1316/週
		上海	2/週	小	332/週
		ハルビン	4/週	小	664/週
		グアム	2/週	小	310/週
ホノルル(運休)	-	-	-		

小松空港 (滑走路 2,700m)

空港	路線	便	便数	大小	定員合計
小松空港	国内線	札幌	1/日	大	216-288/日
		仙台	1/日	小	126-133/日
		東京(羽田)	11/日	大	3574-4169/日
		東京(成田)	1/日	小	50/日
		福岡	2/日	小	292-299/日
		沖縄	1/日	小	150-170/日
	国際線	ソウル	4/週	大	748/週
		上海	4/週	小	548/週
		台湾	2/週	小	134/週

・小松空港において平成20年6月より小松～台湾(台北)の国際定期便が開設された。

(平成20年7月末現在)

能登空港 (滑走路 2,000m)

空港	路線	便	便数	大小	定員合計
能登空港	国内線	東京	2/日	小	332/日

凡例

大: 座席数200席以上
小: 座席数200席未満
は県庁所在地



佐渡空港 (滑走路 890m)

空港	路線	便	便数	大小	定員合計
佐渡空港	国内線	新潟	2/日	小	18/日

信州まつもと空港 (滑走路 2,000m)

空港	路線	便	便数	大小	定員合計
信州まつもと空港	国内線	札幌	1/日	小	74/日
		大阪	1/日	小	74/日
		福岡	1/日	小	74/日

富山空港 (滑走路 2,000m)

空港	路線	便	便数	大小	定員合計
富山空港	国内線	東京	6/日	大	1946/日
		札幌	1/日	大	279/日
	国際線	ソウル	5/週	小	808/週
		ウラジオストク	4/週	小	60/週
		大連	4/週	小	500/週
		上海	3/週	小	465/週

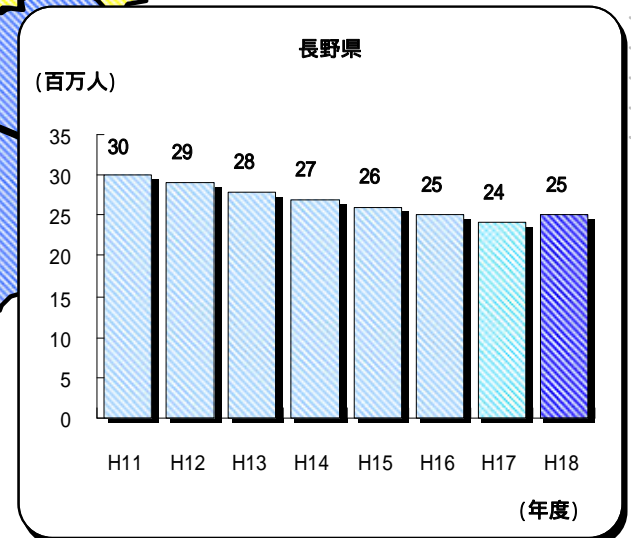
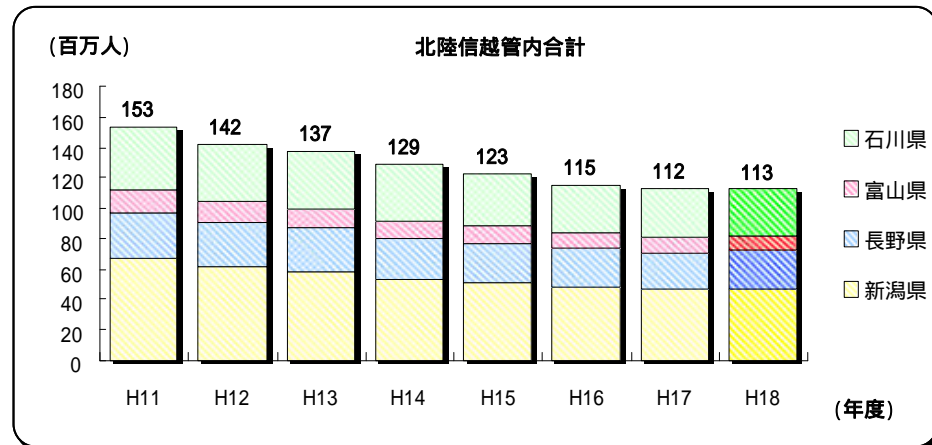
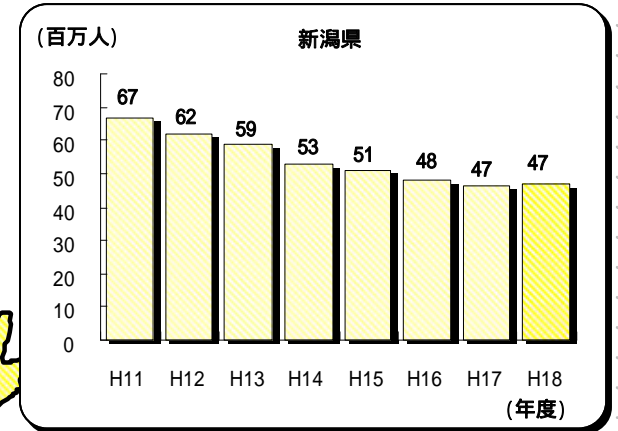
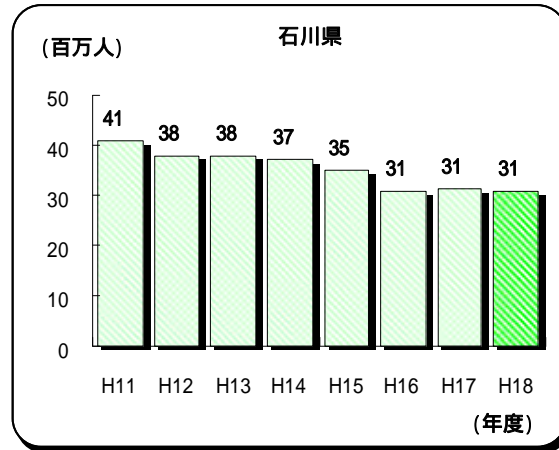
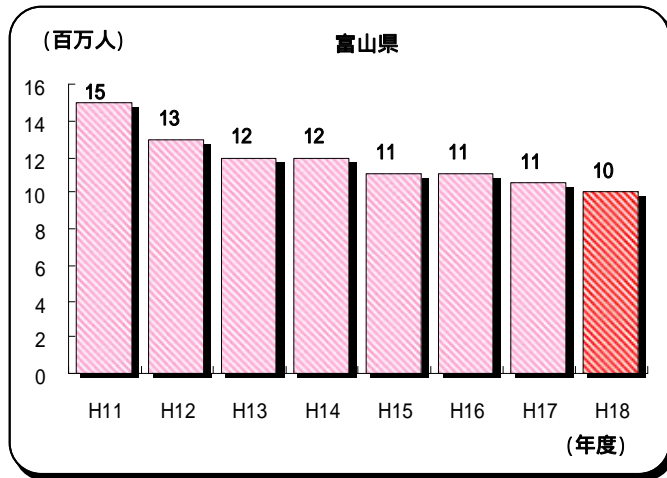


(資料)北陸信越運輸局

旅客流動の動向

乗合バスにおける輸送人員等の推移(北陸信越地域全体)

・輸送人員は減少傾向にある。

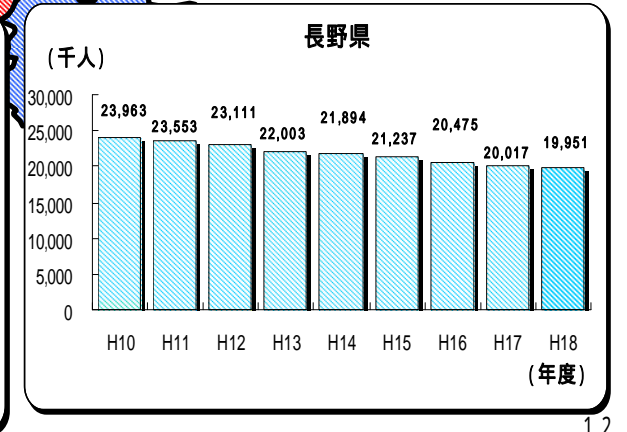
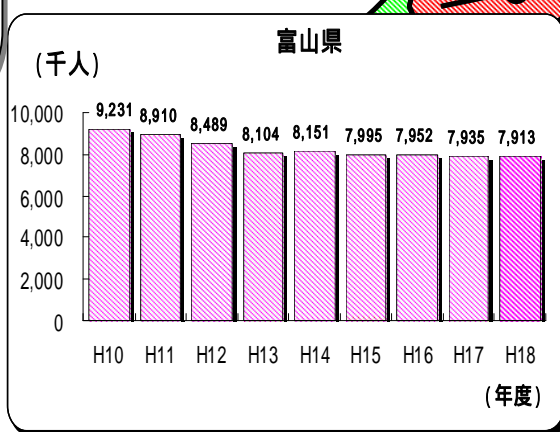
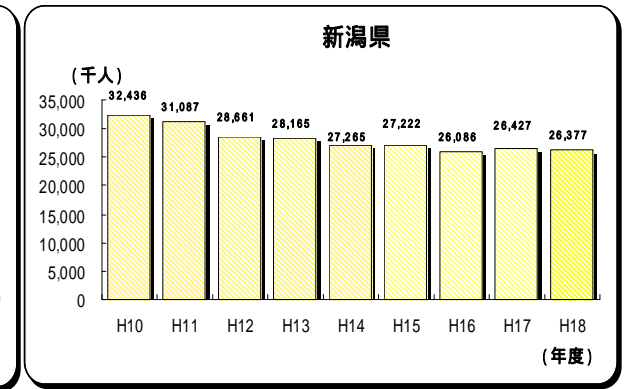
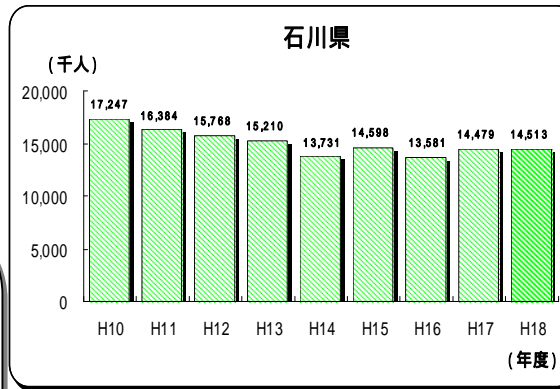
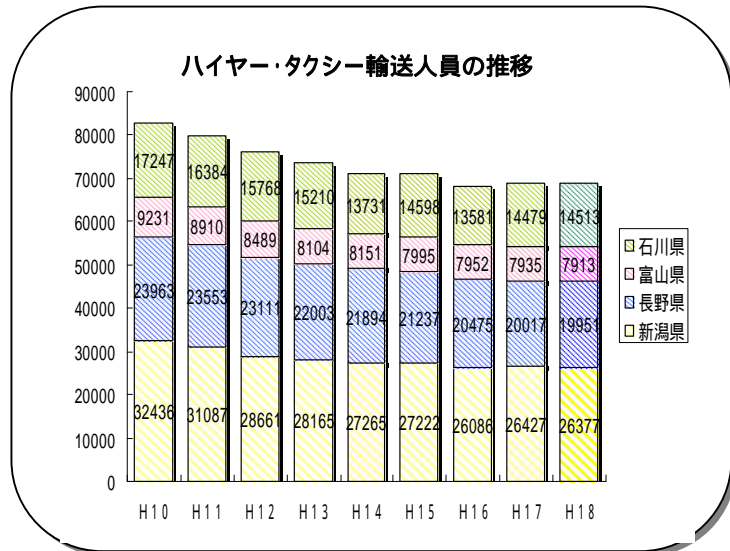


(資料)北陸信越運輸局

旅客流動の動向

ハイヤー・タクシーにおける輸送人員等の推移(北陸信越地域全体)

・輸送人員は、減少傾向にある。



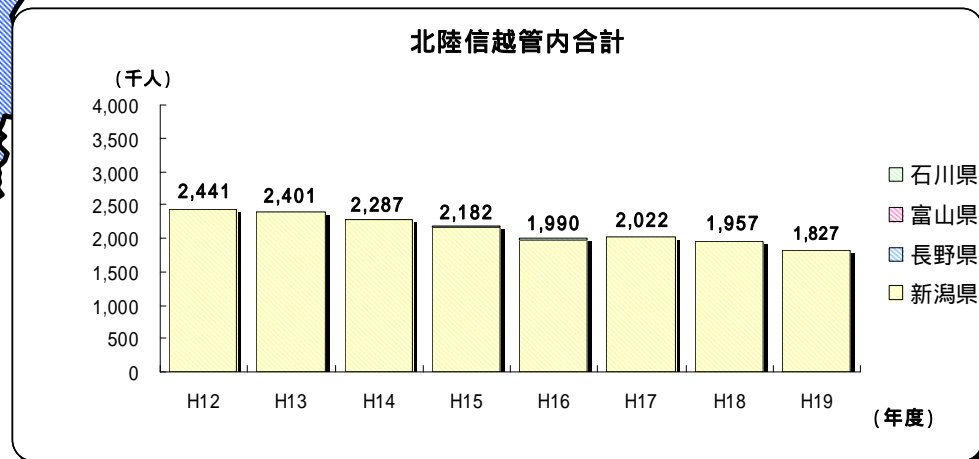
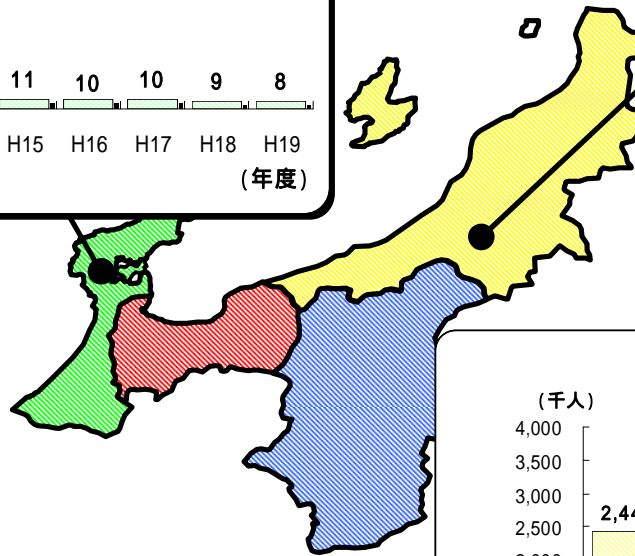
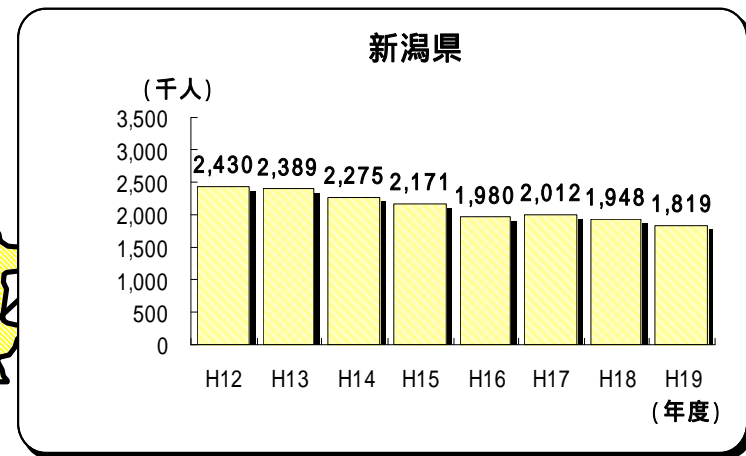
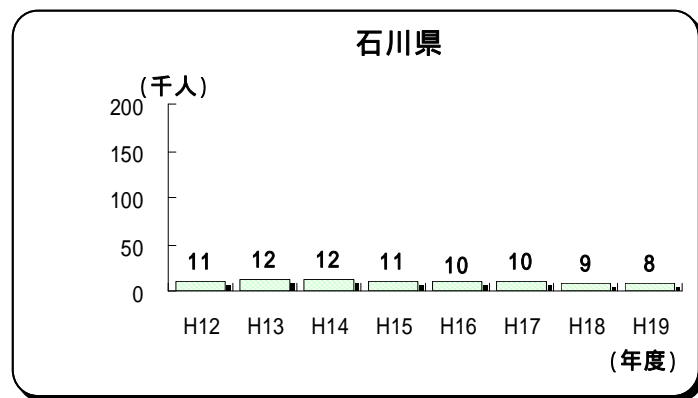
(資料) 北陸信越運輸局

旅客流動の動向

旅客船(離島航路)の輸送人員等の推移(北陸信越地域全体)

・旅客船(離島航路)の輸送人員は減少傾向にある。

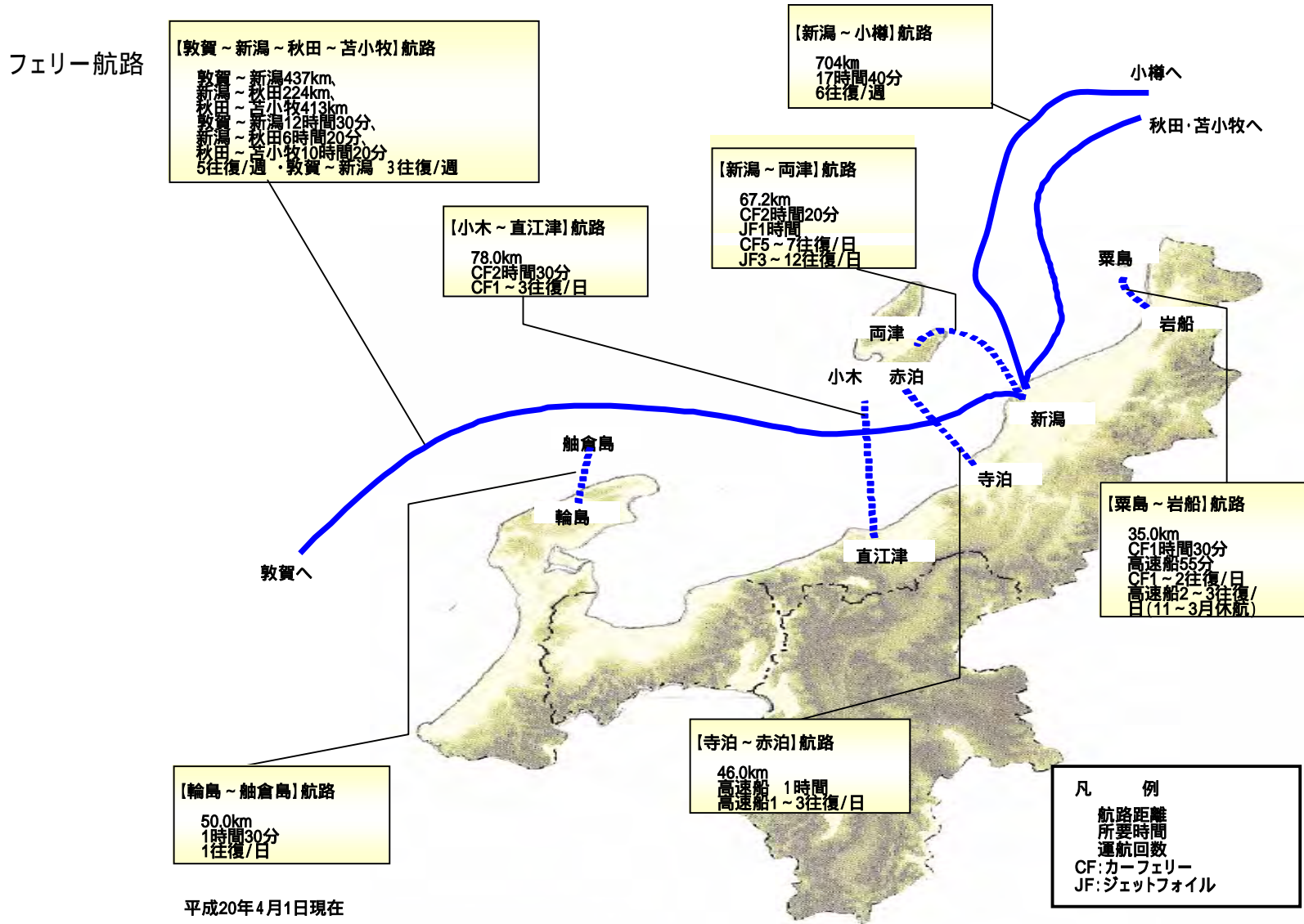
旅客船(離島航路)輸送人員の推移



(資料)北陸信越運輸局

旅客流動の動向

フェリー航路の運航状況(北陸信越全体)

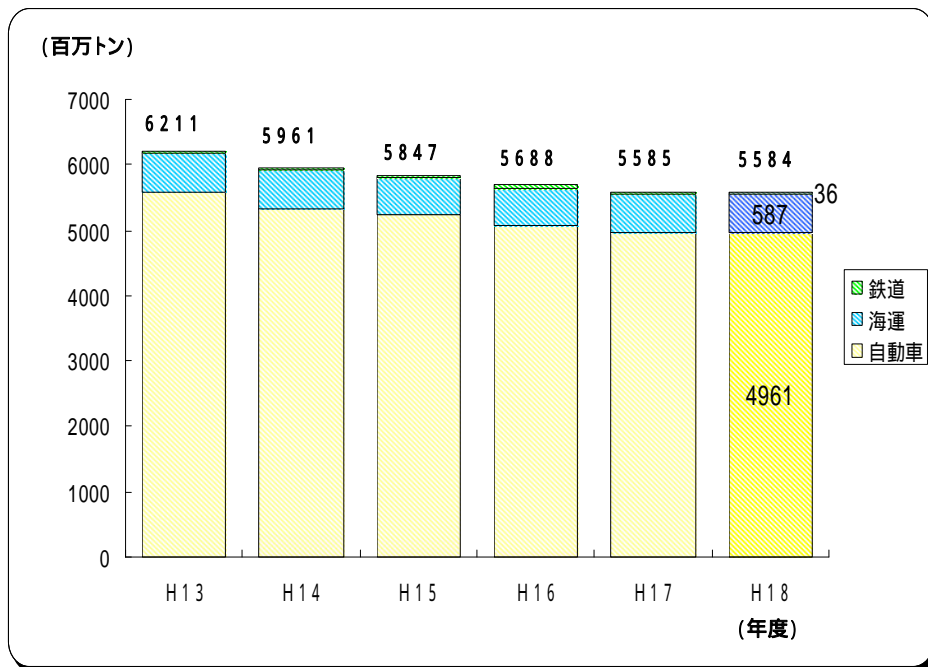


貨物輸送の動向

貨物輸送量の推移及び輸送機関別分担率(全国・北陸信越地域全体)

・輸送トン数は、全国、北陸信越地域とも減少傾向にある。

輸送機関別貨物輸送量の推移(全国)

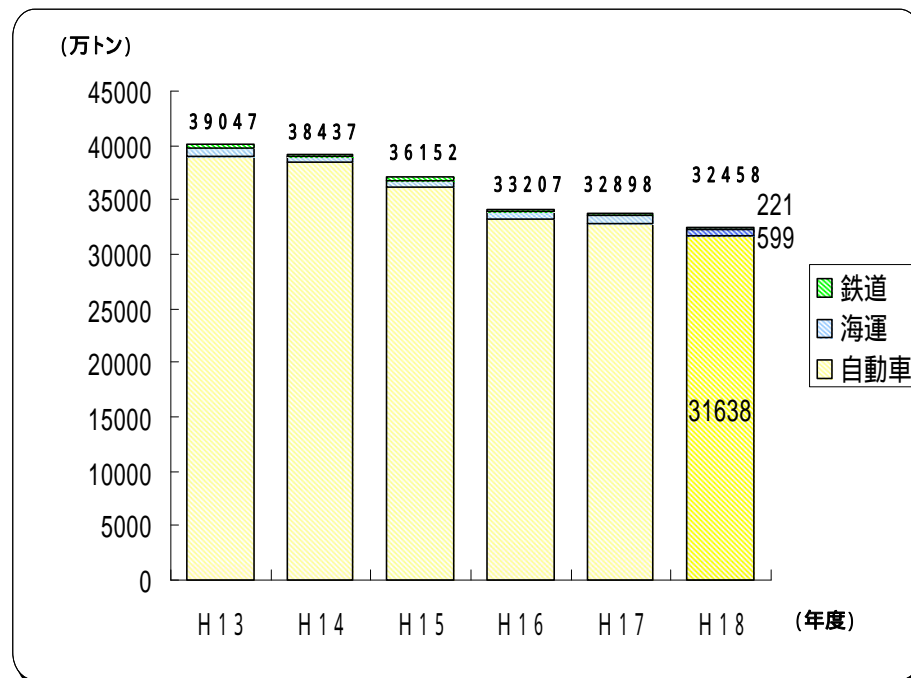


資料:貨物地域流動調査

(注)航空貨物は、含まない。

(注)農水産品、林産品、鉱産品、金属・機械工業品、化学工業品、
軽工業品、雑工業品、特殊品、その他の9品目の合計。

輸送機関別貨物輸送量の推移(北陸信越地域)



資料:貨物地域流動調査

(注)航空貨物は、含まない。

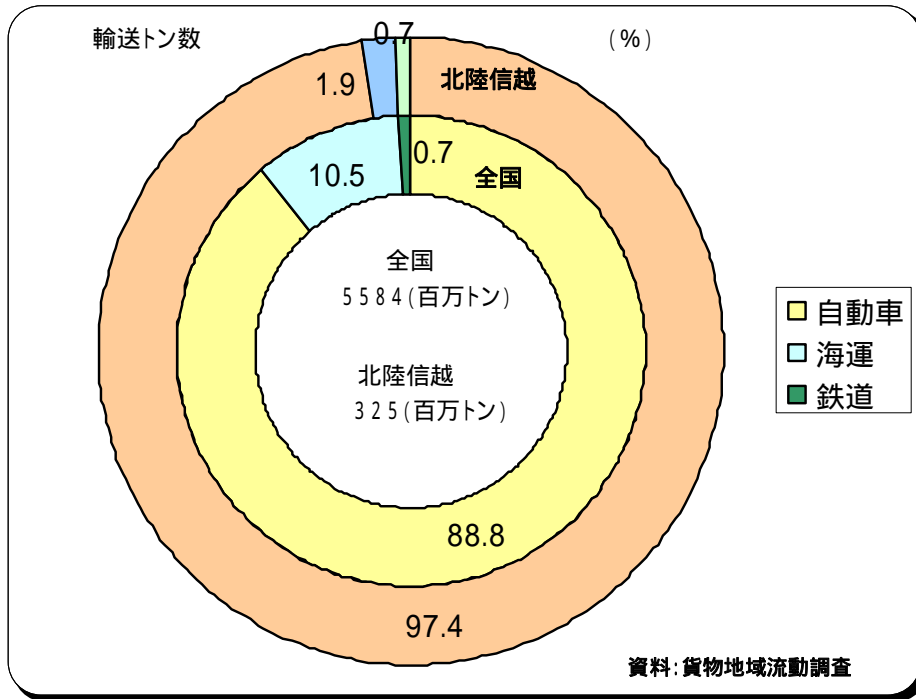
(注)農水産品、林産品、鉱産品、金属・機械工業品、化学工業品、
軽工業品、雑工業品、特殊品、その他の9品目の合計。

貨物輸送の動向

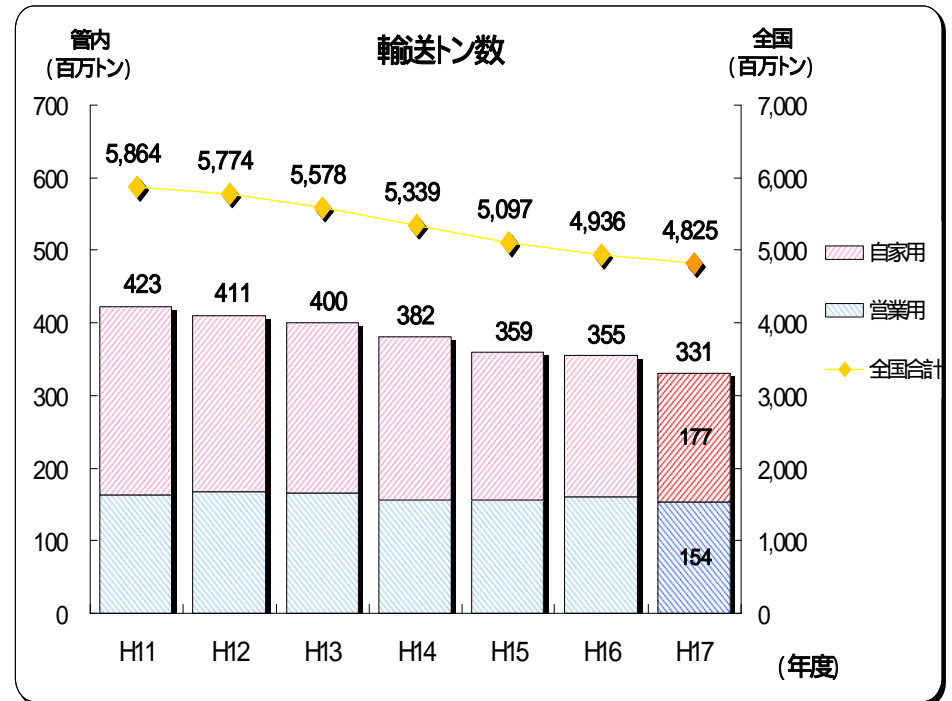
貨物輸送量の推移及び輸送機関別分担率(全国・北陸信越地域全体)

- ・北陸信越地域では、貨物自動車の輸送分担率が高くなっている。
- ・貨物自動車の輸送トン数は、減少傾向にあるが営業用自動車の輸送トン数は横ばいに推移している。

貨物輸送機関別分担率(平成18年度)



貨物自動車輸送量の推移



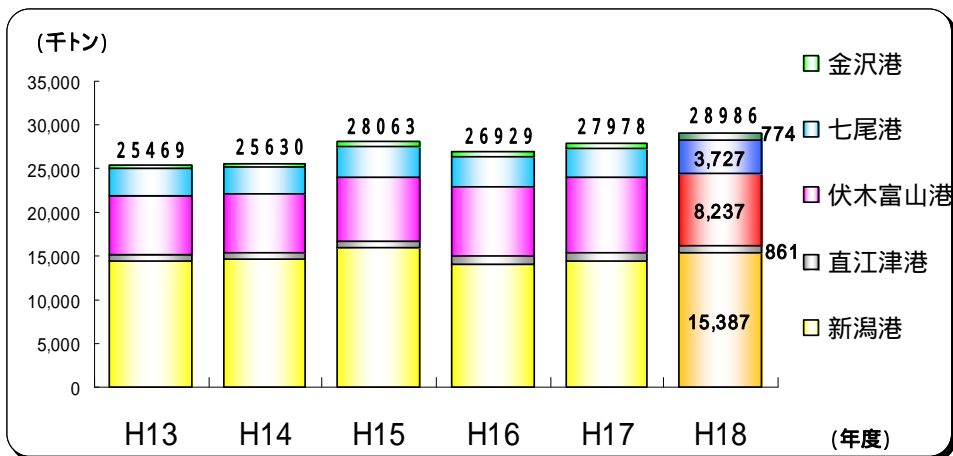
輸送トン数は、自動車輸送統計調査により集計した輸送量を運輸支局別登録自動車数の比率により推計したもので、(軽自動車分は含まない)

貨物輸送の動向

港湾貨物輸送量の推移(北陸信越地域全体)

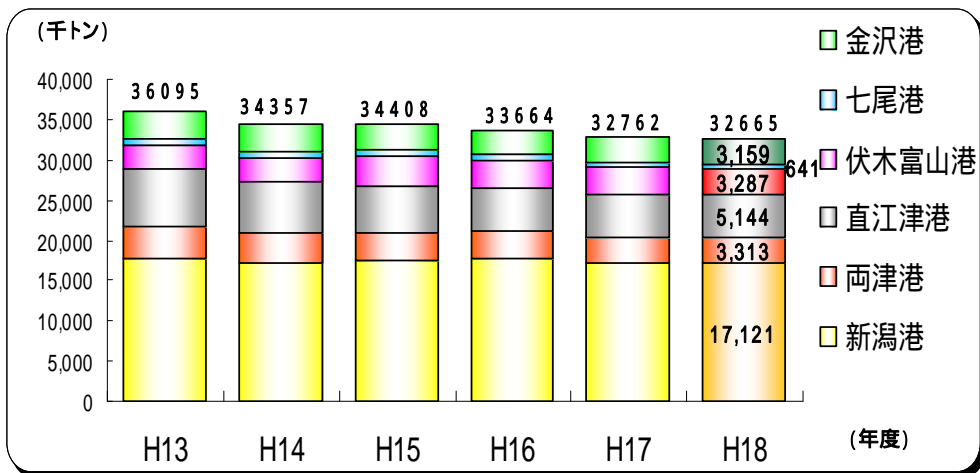
・北陸信越全体では年々増加傾向にある。特に新潟港において外貿取扱量が増加している。

港湾別外貿貨物取扱量



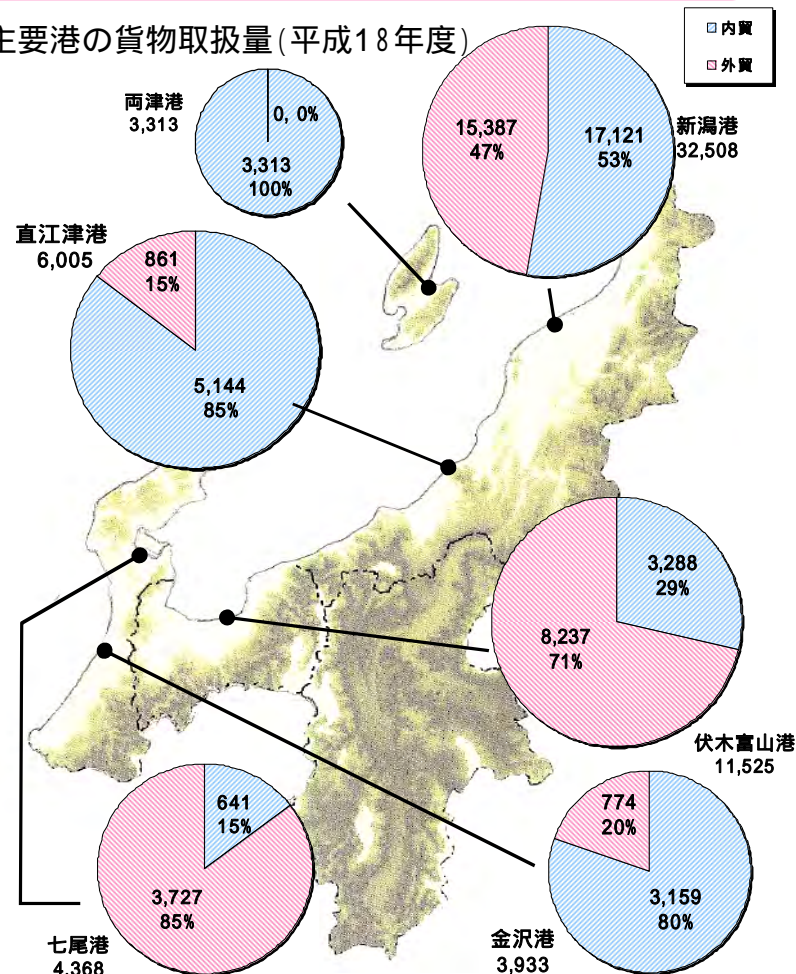
(資料)北陸信越運輸局

港湾別内貿貨物取扱量



(資料)北陸信越運輸局

主要港の貨物取扱量(平成18年度)

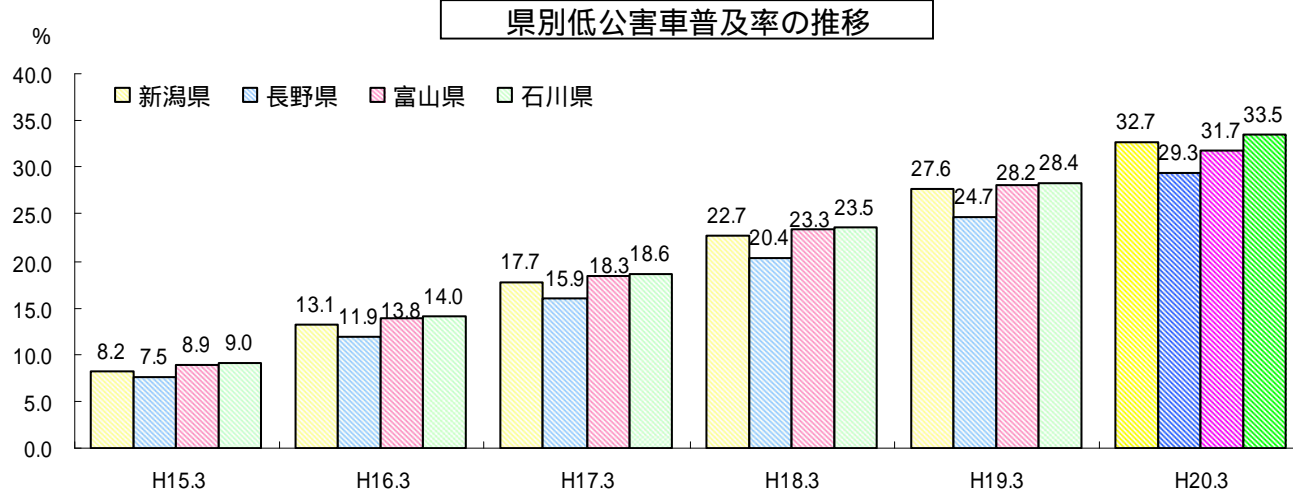
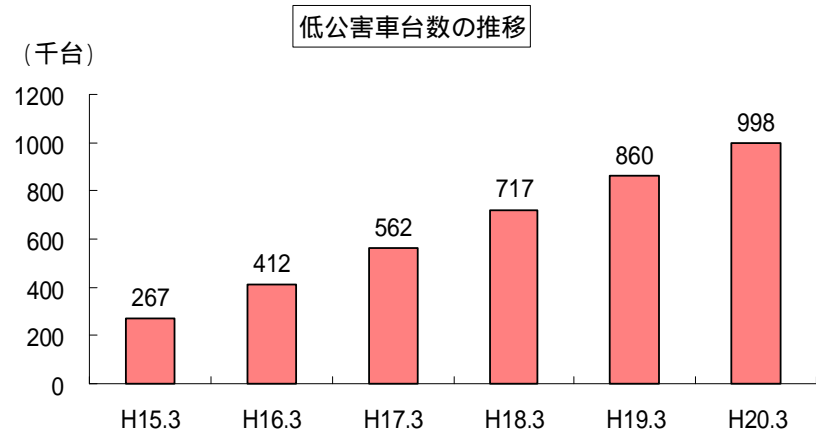
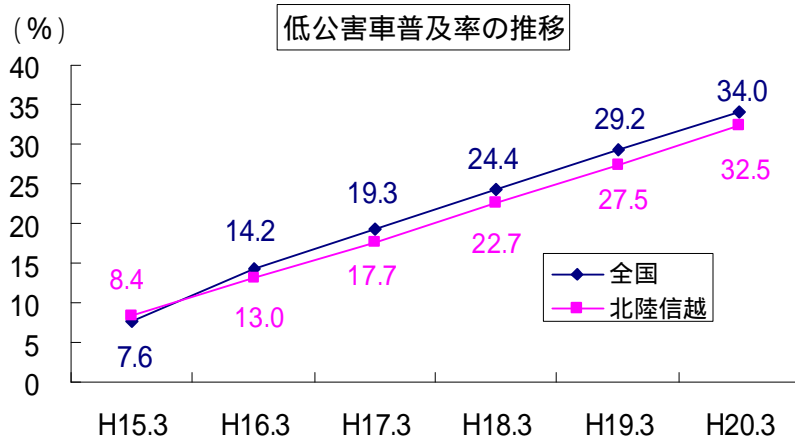


注: 数値は一般(自動車航送船、鉄道連絡船以外)と自動車航送船の合計である。
注: 数値は1月から12月までの年集計である。
資料: 港湾統計(年報)

環境・バリアフリーの動向

低公害車の普及・導入状況(北陸信越地域全体)

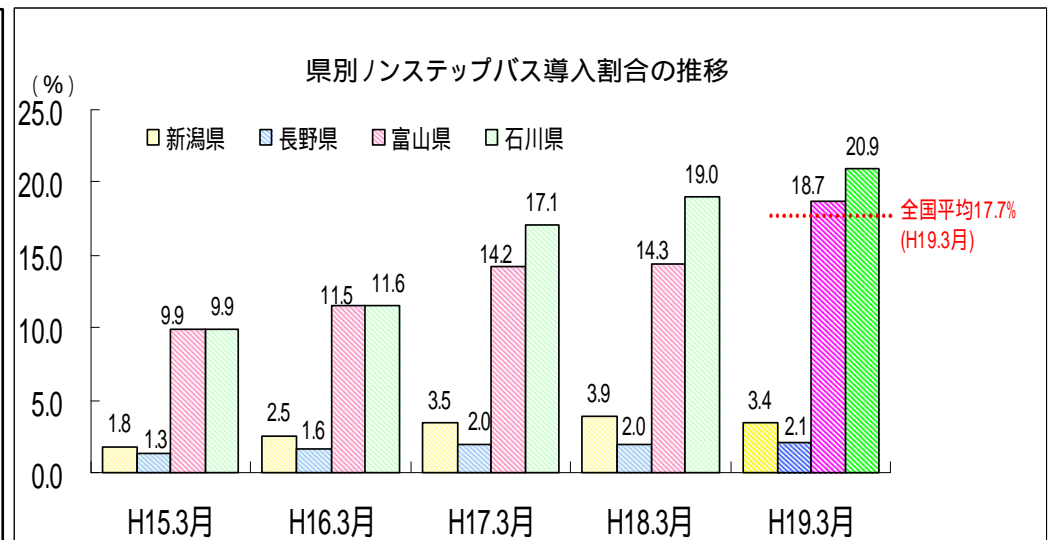
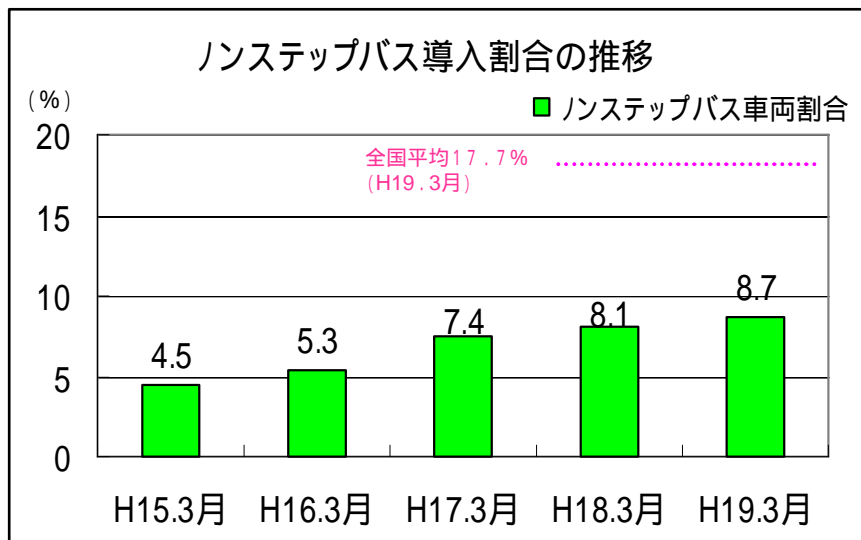
・低公害車の普及率は、着実に上昇している。



環境・バリアフリーの動向

乗合バスのバリアフリー化状況(北陸信越地域全体)

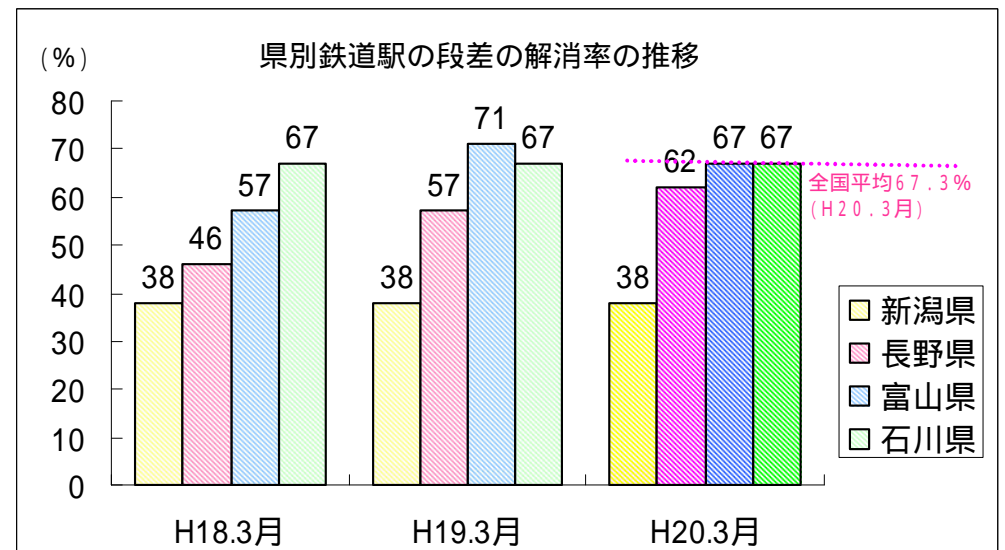
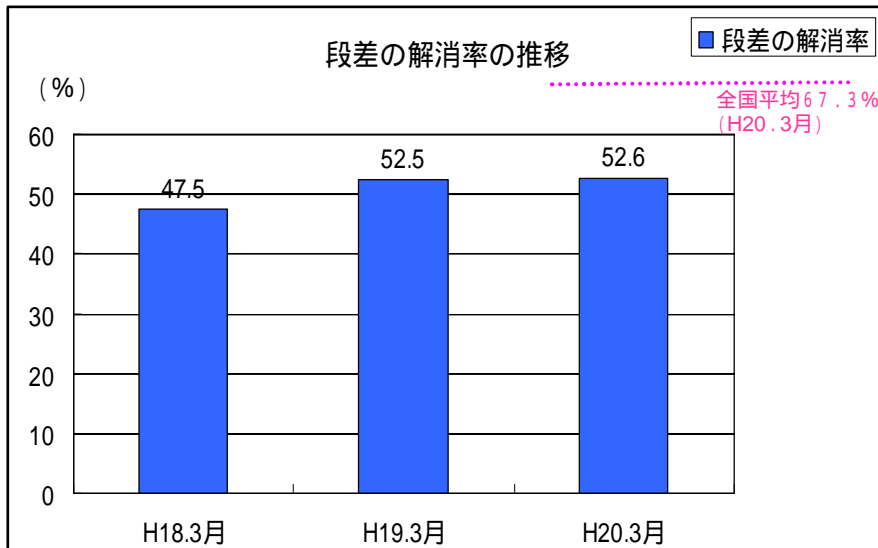
・乗合バスのバリアフリー化は、近年進展しているものの、全国と比べると、低水準である。



環境・バリアフリーの動向

鉄道駅のバリアフリー化状況(北陸信越地域全体)

・鉄道駅のバリアフリー化は、近年進展しているものの、全国と比べると、低水準である。

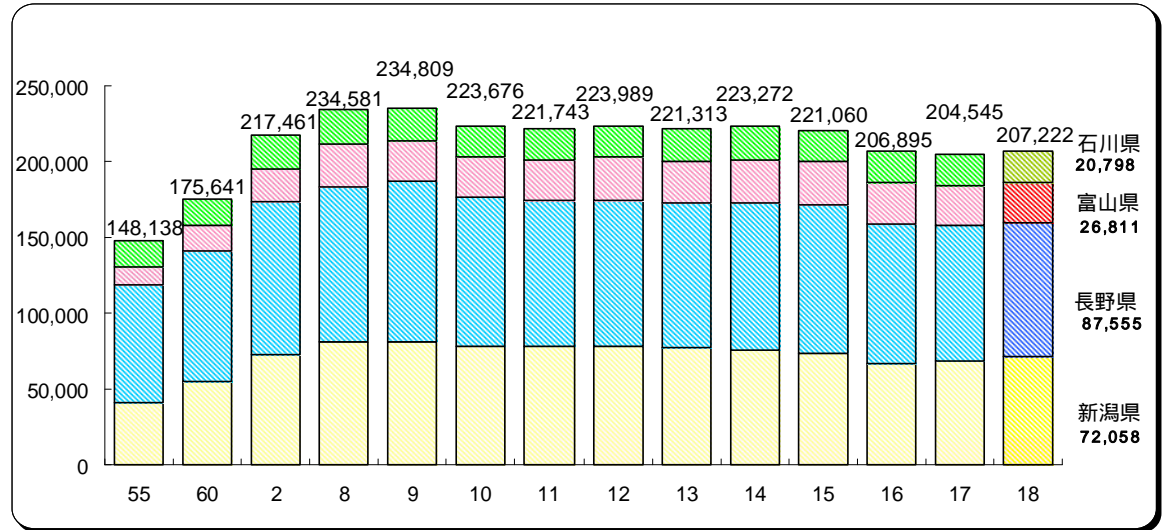


観光の動向

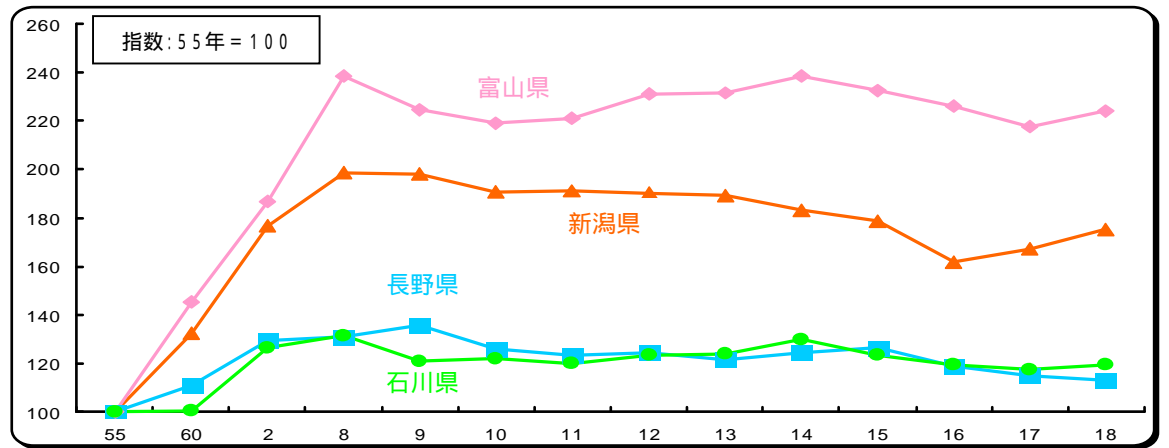
観光客数等の推移(北陸信越地域全体)

・北陸信越地域の観光入込み客数は、横ばいで推移している。

県別観光入込客数の推移



県別観光入込客数



資料:各県「観光統計」

(注):1.新潟県は年度集計である。

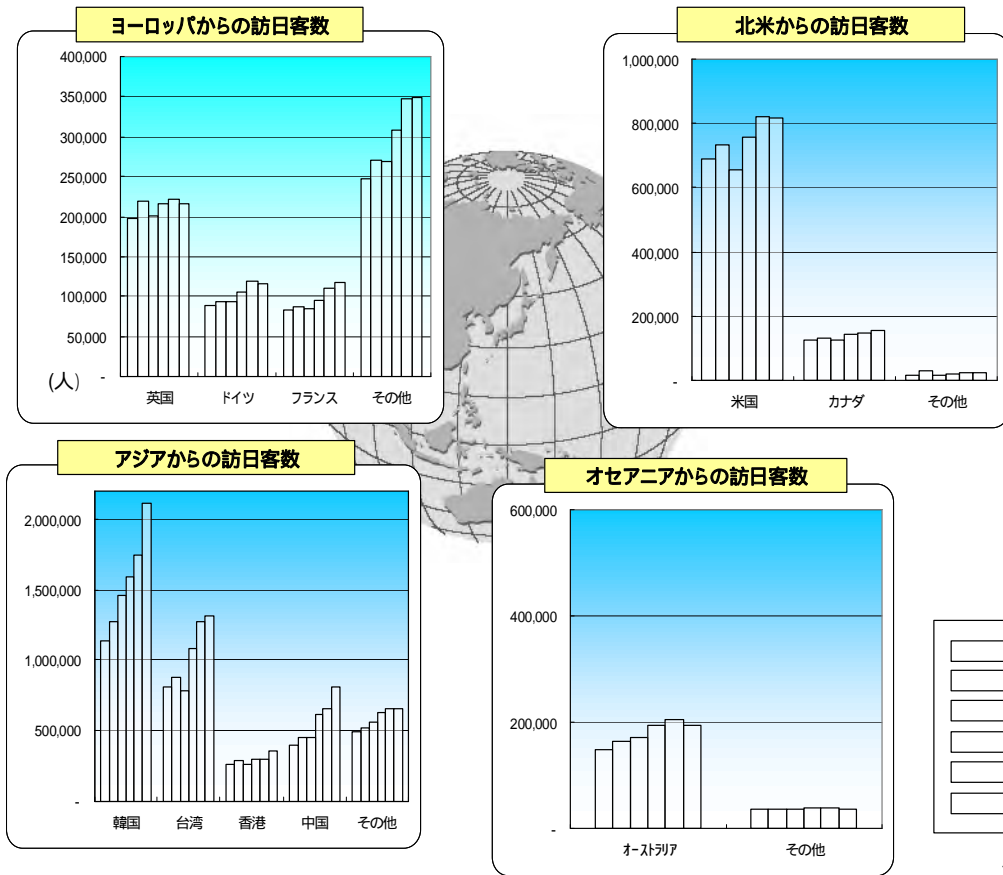
2.石川県は実数である。(新潟県、長野県、富山県は延べ人数であり、回遊観光客数等がカウントされている場合がある。)

観光の動向

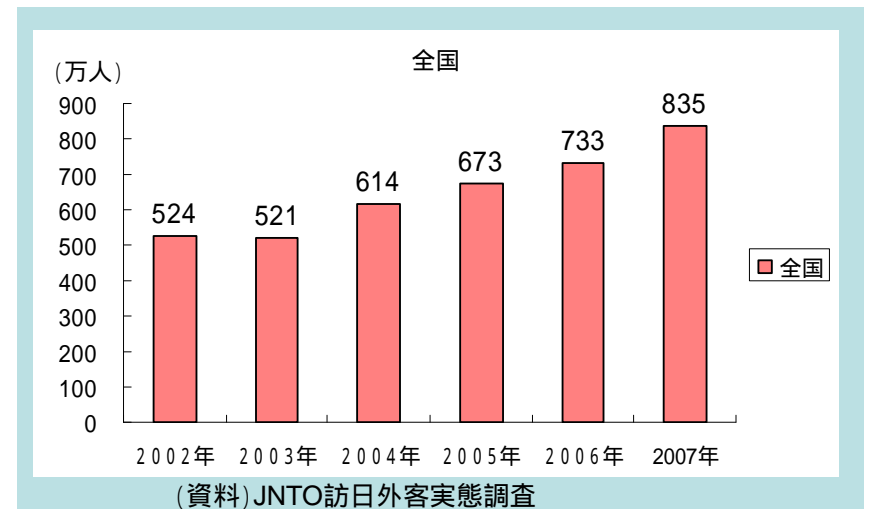
国籍別訪日外国人旅行者数の推移(全国)

・韓国・台湾・中国等の環日本海諸国からの観光客が近年特に増加してきている

主な地域・国別訪問日客数



訪日外国人旅行者数の推移(全国)

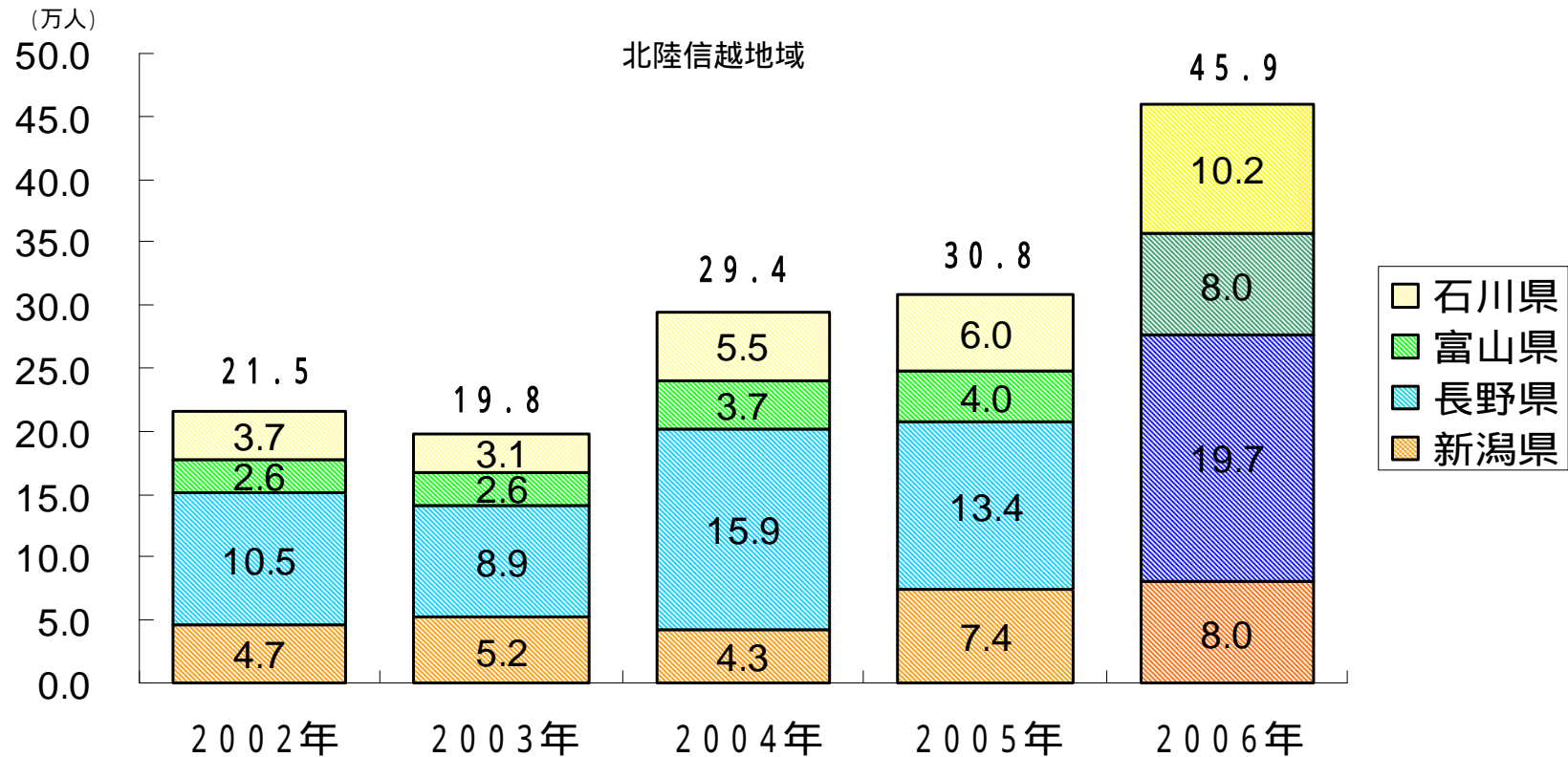


(資料)JNTO訪日外客実態調査

観光の動向

北陸信越地域への訪日外国人旅行者数の推移

・北陸信越地域への訪日外国人旅行者数は全体的に増加傾向にある。



(資料)JNTO訪日外客実態調査

観光の動向

北陸信越地域への訪日外国人旅行者の入込み状況

- 北陸信越地域の主な観光地への外国人旅行者数は近年増加傾向にある。

兼六園(金沢)

兼六園への外国人観光客は増加傾向にあり、特に韓国からの旅行者が増加している。

	平成17年	平成18年	平成19年
台湾人	50,145人	59,852人	79,142人
韓国人	7,208人	10,404人	12,686人
中国人	2,536人	2,734人	2,788人
その他	15,964人	22,997人	30,384人
外国人計	75,853人	95,987人	125,000人

立山黒部アルペンルート

立山アルペンルートへの外国人観光客は増加傾向にあり、特に近隣アジア諸国からの観光客が9割以上を占めている。

	平成17年	平成18年	平成19年
台湾人	64,024人	75,216人	87,469人
韓国人	7,451人	13,644人	19,540人
中国人	1,242人	2,471人	5,195人
その他	1,009人	1,180人	3,178人
外国人計	73,726人	92,511人	115,382人

オーストラリアからのスキー客誘致

平成19年度よりオーストラリアからのスキー客誘致について白馬、志賀高原、妙高高原地域を対象に野沢温泉を加えた誘致活動を行っている。

平成17年	平成18年	平成19年
6,076人	12,950人	20,003人

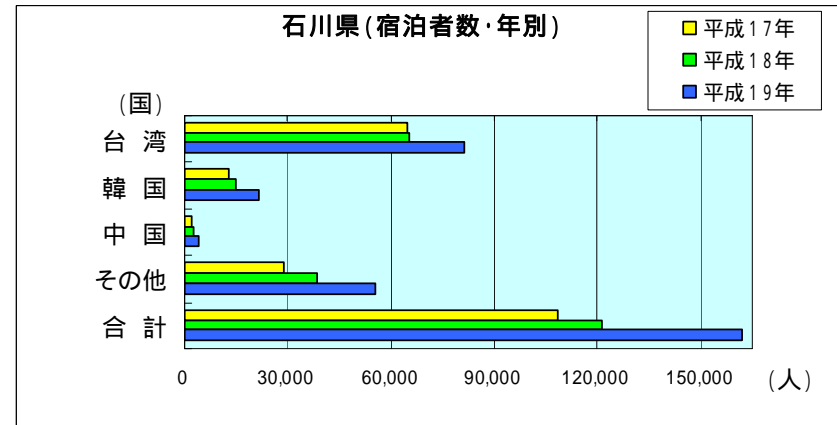
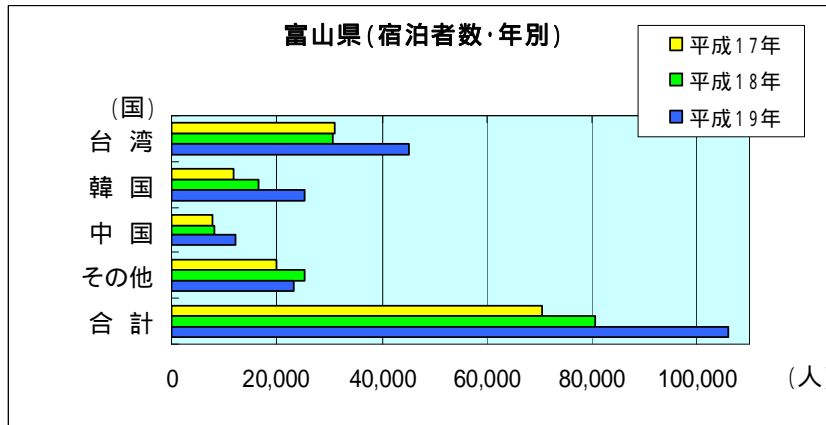
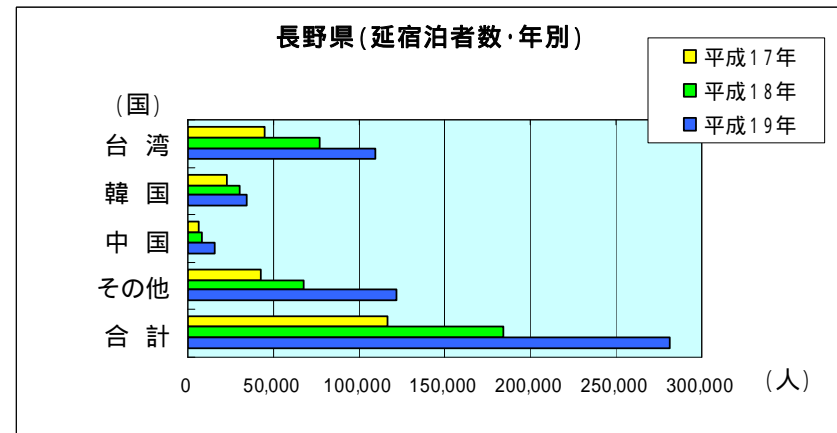
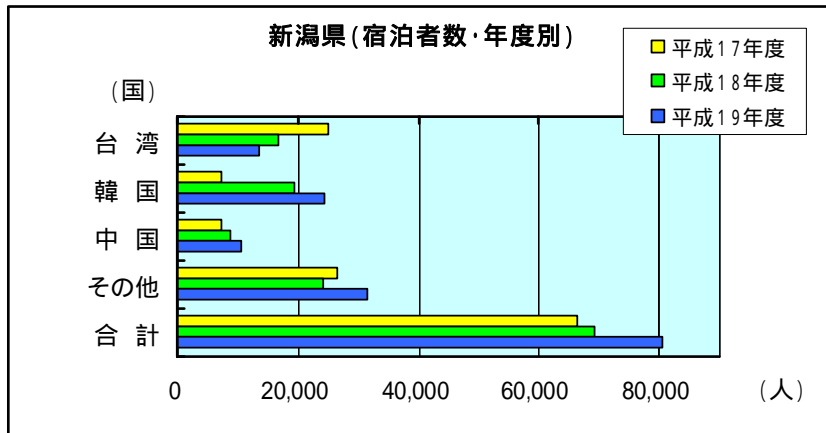
17年度は白馬地域のみ

資料 北陸信越運輸局

観光の動向

訪日外国人旅行者の北陸信越地域での宿泊者数の推移

- ・各県の外国人旅行者の宿泊数は、各県とも増加傾向にある。
- ・特に長野県、石川県における増加率が高い。

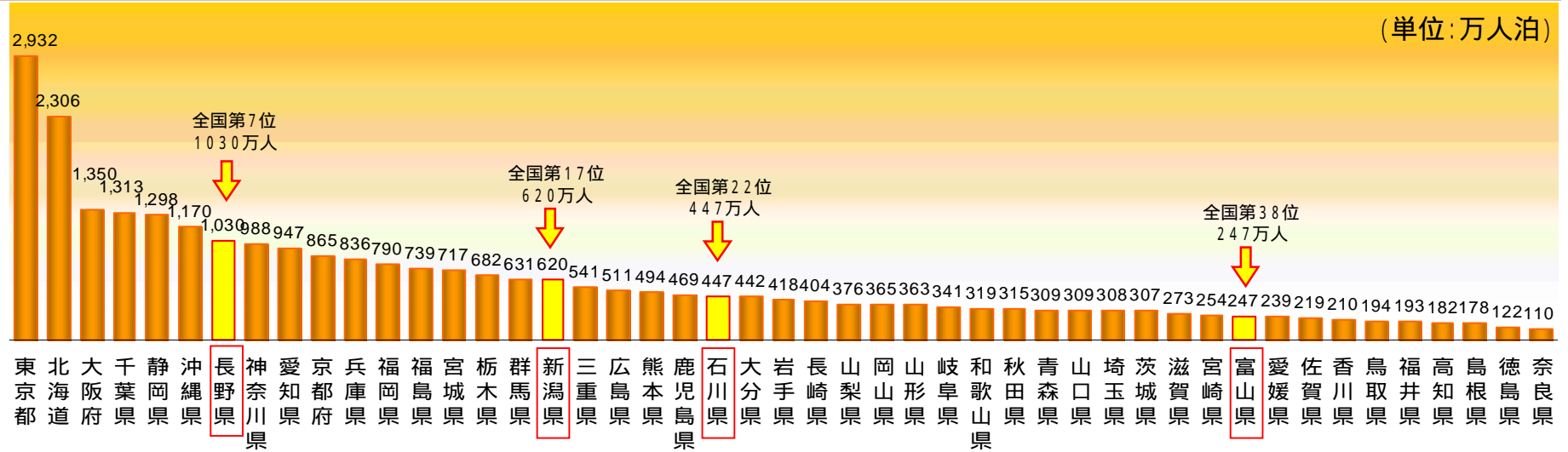


(資料)各県観光統計

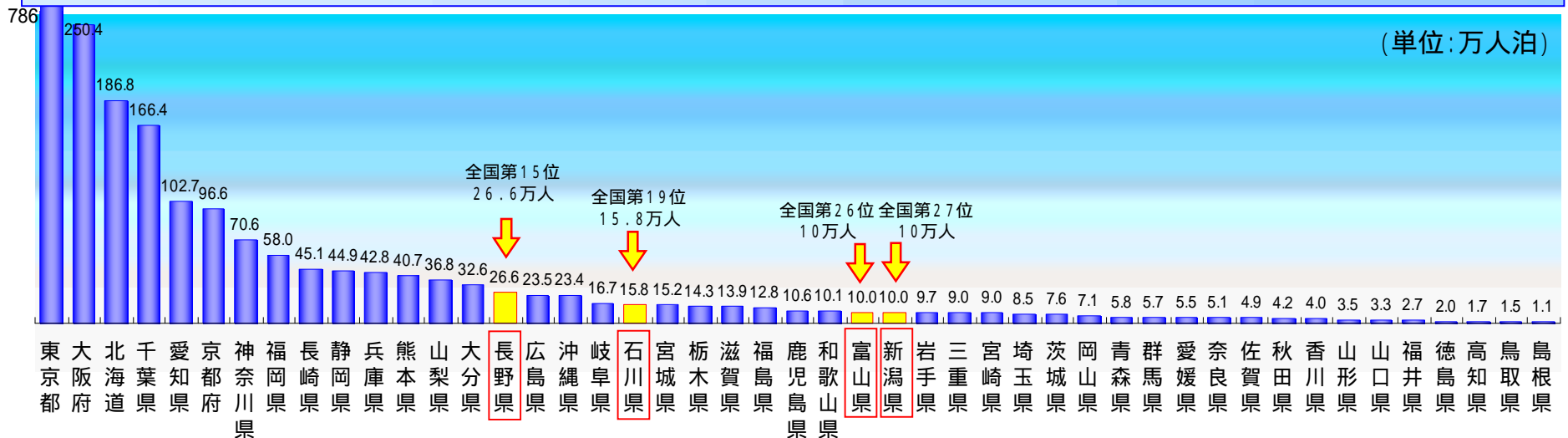
観光の動向

都道府県別の延べ宿泊者数

日本人延べ宿泊者数(平成19年1~12月)



外国人延べ宿泊者数(平成19年1~12月)



出所:国土交通省「宿泊旅行統計調査」平成19年1月~12月の1年間、従業者数10人以上のホテル、旅館及び簡易宿所10,406施設を調査
 ・延べ宿泊者数(日本人)は、「延べ宿泊者数」から「外国人延べ宿泊者数」を除いた数値